

2人の幼子を抱えて郡山市から大阪に母子避難した母親の感動の手記。安心した
支え合いの中で自らを語り始め、家族4人で訴訟を決意するまでを赤裸々に綴る。

森松明希子 著

寄稿 本多利子 / 中島宏治



母子避難、心の軌跡

家族で訴訟を決意するまで

もくじ

出版にあたって (除本理史)

<母子避難手記> 苦悩を越えて、訴訟を決意するまで (森松明希子)

<寄稿> 今という時をかたちにする-ささえる・ささえられる (本多利子)

<寄稿> 「究極の選択」を強いたのは誰か

——なぜ原発賠償関西訴訟が提起されたのか (中島宏治)

人はひとりでは生きてはいけないと、毎日実感しています。母子避難を選択しなければ、あたりまえ過ぎるそのことに気づきもしないで、私は安穏と暮らしていたと思います。震災から二年半、私が子どもたちに伝えたいことは、生きること、生かされていることに「感謝すること」なのです。(著者)

東京電力福島第1原発事故で避難生活を余儀なくされたとして、近畿地方などに避難した人々が、国と東電を相手取り、損害賠償を求めて集団提訴した。著者は、原発賠償関西訴訟原告団代表。

46判、168頁

定価 本体1400円+税

12月中旬発売予定

かがわ出版

〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入

TEL 075(432)2868 / FAX 075(432)2869

ホームページ <http://www.kamogawa.co.jp>

きりとり線

注文書

お名前

住所 〒

電話番号

部数

冊

かがわ出版 TEL075-432-2868 FAX075-432-2869

母子避難、心の軌跡

家族で訴訟を決意するまで
森松明希子

ISBN978-4-7803-0676-7 C0036 ¥1400E

定価
本体1400円+税